2017年は景気回復基調が続伸した。大企業中心と言われがちだが、各種の経済指標を見る限り、中堅・中小企業にも拡大しているように思われる。ただ、実感が伴わないのは人手不足問題が顕在化することも一つの要因で、省人化に向けた設備投資に加え、働き方改革も本格化しようとしている。こうした状況を背景に、18年は今後の企業経営の転換点になるとの見方があり、目の離せない1年になりそうだ。

—2018 飛躍—
京滋の企業

しがぎん経済文化センターが1月12日に発表した2017年12月の滋賀県内の経済概況では、製造業の生産活動を示す鉱工業生産指数で鉄鋼や電気機械などは低下したものの、汎用・生産用・業務用機械や食料品、金属製品などが大幅に上昇。前年同月比では12カ月連続で2ケタの大幅上昇で、前月比では2カ月ぶりの上昇となった。

生産状況の先行きを表す出荷指数と在庫指数は、出荷が2カ月ぶりに改善するも在庫は8カ月連続で、しかも大幅上昇となったことが懸念される。需要面では一部で堅調も、個人消費や民間設備・住宅投資が伸び悩む。雇用情勢は有効求人倍率が08年秋のリーマン・ショック前のピークに並ぶ高水準にあり、人手不足が顕在化している。

中小企業情勢は、同センターが17年11月に実施した「県内企業動向調査」で、17年10—12月期の自社業況判断DIが7ポイント（7—9月期）から6ポイント上昇。業況感も回復傾向が顕著になっている。これにより、今後の製造業の生産活動や需要面は総じて堅調な推移が期待されている。人手不足解消という課題はあるが、18年の県内景気は緩やかな回復が続くとみられている。

近江最古のパワースポット・白鬚神社（滋賀県高島市、びわこビジターズビューロー提供）

雪の八坂通り（京都市メディア支援センター提供）

京滋の有力企業トップに聞く（30・31日連載）

坂製作所社長
坂 栄孝 氏

空気容量をアップ
噴霧用コンプレッサー具体化

—2018年の事業環境はどうみますか。

「17年夏頃から加工の仕事が忙しく、18年もこの傾向が続くのではないか。当社は試作品の仕事が多いが、18年夏頃までは受注がある状況だ。それだけで仕事が埋まる訳ではないが」

—新設備の導入は検討していますか。

「受注品が優先になるので、昼間は自社商品のコンプレッサーの部品が作りにくくなっている。従来、サイズ、精度、研削などの特徴のある機械を時代に合わせ導入していた。今回は現在、保有しているマシニングセンター（MC）と同じ機種を導入する計画だ。同じMCだと生産量を増やせるだけでなく同じプログラム、治具を共有できるなど利点も多い。生産量は2・5倍かそれ以上にできる」

—コンプレッサー「モテコン」の販売状況は。

「現状はモテコンのデモ機を20台ほど貸し出し、購入に結びつけている。要望が多いのは空気容量のアップ。標準品は吐出出力0・5メガパスカル、空気容量が毎分10リットルだが同0・8メガパスカル、15リットルを開発中だ」

—今後の展開は。

「噴霧用コンプレッサーのニーズをくみ取って用途開拓を進めてきた。コンプレッサー本体には液体が通らない方式なので水、消毒液、アロマなど噴霧用の液体を選ばない。18年は、噴霧した水分などが空気中にどれだけとどまっているのかを数値化し、商品化を進める」

—自社商品がある利点は。

「加工は他社と差別化しにくい。モテコンを見れば、加工精度は分かってもらえる。従業員14人の会社で開発、設計、加工、検査、組み立てて、商品に仕上げている。社員が一丸となって取り組んでいる姿勢も理解してもらえ、加工を任せてもらえる」

「mote con」噴霧用コンプレッサー